

令和8年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 小俣 弘子）

学校の教育目標	
心 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童） じ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童） み 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
子ども, 一人一人を大切に ^① する学校 1 自分の可能性を伸ばすことができる学校 2 自ら学び、深く考える子が育つ学校 3 みんなでつくる安心・安全な学校 安心…「居場所づくり」・一人一人を価値ある存在として尊重する。 ・いじめや不安がなく、安心して過ごせる学校 安全…・事故やけがのない学校 ・災害等に備える学校 4 地域とともにある学校 5 信頼される学校 目の前の課題に真摯に向き合い、傾聴し、納得と信頼を得る努力をする。	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	1 小学校 6 年間をかけて、「自分を大切にし、自分に自信をもって成長していく」子どもを育て、これからの社会に向けて前向きにチャレンジできる大人へ育てていきたい。特に高学年の自己肯定感をさらに伸ばすことが課題である。 2 教員の授業力向上は継続した課題である。児童にとって考えたり、話し合ったりすることが楽しいと感じる授業を実践していく。 3 学校が居場所として安心できる環境づくりを継続・改善していくことが課題である。 「相談ができる・児童」74% 児童にとって相談しやすい体制を作っていくことが課題である。 4 地域や保護者の方は、全体的に協力的な方が多い。 コミュニティスクールでの取組では、保護者との連携を広めていくことが今後の課題である。 5 児童や保護者の相談、困り感到丁寧に、早期に対応し、児童の心の安心のために全力を尽くす。（組織で対応する。）
中期的な経営目標	
① 多様性を認め、自他共に一人一人を価値ある存在として尊重し、いじめや不安がない安心して過ごすことができる環境づくりをする。 ② 自ら考え、解決しようとする過程で主体的で対話的に取り組み深い学びができる児童を育成する。（学力の向上） ③ 健康保持・体力増進に努めるとともに、自分の命を大切にするための安全な生活ができる児童を育成する。 ④ 自分の可能性を伸ばし、自分に自信をもってチャレンジできる児童を育成する。（自己肯定感の向上） ⑤ 通常の学級・特別支援学級・特別支援教室等の組織的連携を図りながら、個別最適化した特別支援教育を推進していく。 ⑥ コミュニティスクールを基盤とした学校・地域・保護者の連携力向上を目指す。 人・組 学校経営方針を実現させるための取組を工夫しながら取り組むことができる組織。児童や保護者の相談、困り感到丁寧に（早期に）対応する。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ①「一人一人ちがっていい」という多様性を受け入れる講話や人権の授業、かしわとの交流等の活動を行う。 ②相手を大切に ^① する基本姿勢として、あいさつの指導を年間通じて行う。合わせて、相手を意識した言葉遣いができるよう日常的に指導する。 ③「どんな理由があってもいじめはいけない」こと ^② の理解を児童自ら深められる授業や活動を行う。いじめに関する授業の実施及び研修、「こころの健康観察」等のアンケートを通して、いじめのない安心した環境を作っていく。	(1) 取組目標（具体的方策） ①・自ら課題をもち、主体的、対話的に考え、問題解決できる児童を育成する。 ・教員は、授業改善を積極的に行う。【タブレット端末の利活用、ユニバーサルデザインの視点（ハンドサイン等）、少人数指導、教科担任制等】 ② 年間 2 回の読書月間と毎週木曜日の読書タイムを中心に読書活動を推進し、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	(1) 取組目標（具体的方策） ① 安全面（食・災害・交通・生活等）において、児童には、正しい知識を身に付けさせる。 ② 教職員全員の危機管理意識を高度に保つ。 安全教育を通じて自ら身を守る行動ができる児童を育成する。 ③ 体力向上を図る取組（チョコプラ1 ダブルダッチ）や外遊びの推進、運動会を工夫して実践し、運動の楽しさを味わわせる。また、体力テストを通じて課題を見つけ、改善に向けて取り組むようにする。
(2) 成果目標（数値目標） ① 学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「自他共に愛する」（児童）90%以上を目指す。（R7 89.5%） ②「自分はよく挨拶をしている」（児童）で、91%以上を目指す。（R7 90.4%） ③学校評価アンケート(児童)において ・「学校には友達がいる楽しい」で 95%以上を目指す。（R7 93.9%） ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」で100%を目指す。（全国学力調査・質問紙）（R7 95.4%）	(2) 成果目標（数値目標） ① 学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「学力定着 分かった できた」（児童）90%以上（R7 90%）を目指す。 ・「伝え合ったり話し合ったりしている」（児童）85%以上（R7 83.3%） ・「ICT 機器の活用」で95%以上（R7 93.3%）を目指す。 ② 学校評価アンケート（児童・保護者）において、「読書活動」（児童）項目への肯定的な回答85%以上（R7 84.1%）を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ①・児童のけがや食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。 ・学校評価アンケート（児童・保護者・教員）「安全・安心」の項目で95%以上（R7 94.5%）を目指す。 ② 学校評価アンケート(児童・保護者)において、「健康教育」の項目への肯定的な回答児童90%以上(R7 90.4%)を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 自己肯定感の向上	5 特別支援教育の推進	6 地域とともにある学校
<p>(1) 取組目標（具体的方策）</p> <p>① 一人一人自分のよさや強みに気付ける機会を設定する。</p> <p>② 周りの大人や友達が相手のよさを伝えたり、励ましたりする機会を設定する。</p> <p>③ 「子どもの声」を生かして、児童発信、児童主導の活動を重視する。</p>	<p>(1) 取組目標（具体的方策）</p> <p>① 特別支援学級や通級の児童が実態に即して計画的に学習を進め、個に応じた力を付ける。計画に沿った特別支援学級児童との交流・共同学習を進め、多様性尊重への理解促進を図る。</p> <p>② 特別支援教室や個別指導等での学習が、在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員やコーディネーターを窓口として円滑な連携が図られるようにする。また個別最適化した支援や環境を提供できるよう相談体制の充実も図る。</p>	<p>(1) 取組目標（具体的方策）</p> <p>① 「コミュニティスクール」の活動を基本として「地域学校協働本部」の活動を更に充実させ、「放課後学習教室」や「漢字検定」、外部人材の活用等の取組を児童の安心感や学習意欲向上につなげていく。</p> <p>② コミュニティスクールの取組「熟議」や「自転車教室」を展開し、家庭・地域・学校が一体となって児童の課題改善に努める。</p>
<p>(2) 成果目標（数値目標）</p> <p>① 学校評価アンケート（児童）において ・「自分にはよいところがある」で85%以上（R7 78.6%）を目指す。</p> <p>② 学校評価アンケート（児童）において ・「子どものよさや頑張りを認め声を掛けている」（教員）100%を目指す。</p> <p>③ 「思ったり考えたりしたことを話し合っている」で85%以上（R6 82%）を目指す。</p>	<p>(2) 成果目標（数値目標）</p> <p>① ・かしわ学級との交流の機会を各学年・学級で位置付ける。（月1回以上） ・「分かる できた」かしわ学級の児童 8割以上を目指す。</p> <p>② 学校評価アンケート（児童・保護者）において、 ・「相談体制」に関する項目で児童 80%以上（R7 74%）を目指す。</p>	<p>(2) 成果目標（数値目標）</p> <p>① 学校評価アンケートにおいて、「地域とともにある学校づくり」（児童・保護者）への肯定的な回答 92%以上を目指す。（R7 児童91.7 保護者85.3）</p> <p>② 「熟議」の保護者20名、地域20名を目指す。 「親子自転車教室」の感想で肯定的な評価70%を目指す。</p>

人材育成・組織運営

- ・主幹教諭をリーダーとして主任教諭の能力を生かしたOJTの充実（月1回）を図る。（若手教員の育成、授業力の向上）
- ・主任教諭と若手の教員をペアで組んだり、メンター制度を取り入れたりして若手教員がいつでも相談できる環境を整える。
- ・組織の一員として、担当の分掌に責任をもち、前年度踏襲にとどまらず、校務改善に向けて改善案を提案する。（自己申告時目標設定）
- ・教員が笑顔で元気に児童の教育に邁進できるように、ライフワークバランスを推進する。（在校時間の管理 月平均45時間以下85%以上）